

《八戸圏域定住自立圏共生ビジョン》

八戸圏域定住自立圏の形成に向けて

～人・産業が元気で活力・魅力を創造・発信する北東北の中核都市圏～

八 戸 市

目 次

◎定住自立圏構想

- 1 定住自立圏構想の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 地方圏の厳しい現状
 - (2) 定住自立圏構想とは
- 2 定住自立圏形成の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 定住自立圏の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

◎八戸圏域定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって

- 4 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 5 定住自立圏の名称及び構成市町村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 6 ビジョンの期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

◎八戸圏域定住自立圏共生ビジョンの概要

- 7 八戸圏域の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (1) 圏域の結びつき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 主な地域資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 8 圏域の課題と可能性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (1) 圏域の課題
 - (2) 圏域の可能性
- 9 圏域の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 10 八戸圏域の取組の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

★別紙・・・具体的取組の概要

◎定住自立圏構想

1 定住自立圏構想の背景

(1) 地方圏の厳しい現状

- ◆ 少子・高齢化、人口減少、厳しい財政状況などを背景として、地方圏は活力の低下が顕著になっています。
- ◆ 我が国は、今後急速な人口減少時代に入ると予測されており、三大都市圏と比較してその度合が著しいとされている地方圏の将来は極めて厳しい状況にあります。

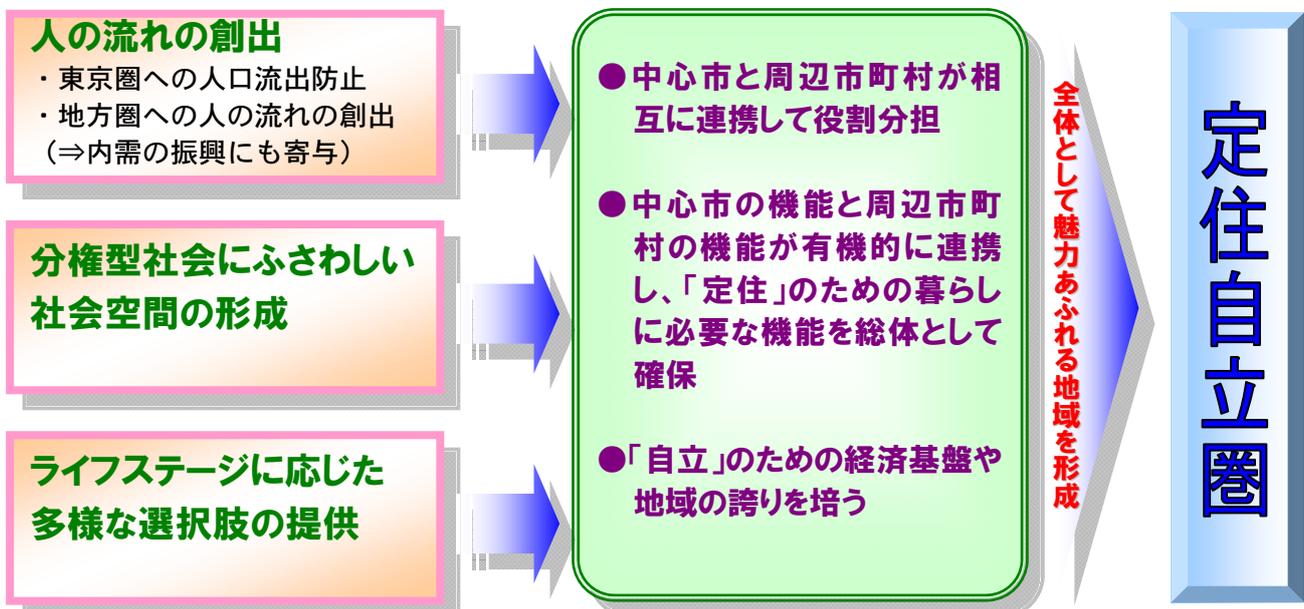
大都市圏への人口偏在



出典：「日本の将来推計人口（平成 18 年 12 月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

(2) 定住自立圏構想とは

- ◆ 定住自立圏構想は、
 - 1) 東京圏への人口流出防止と地方圏への人の流れの創出
 - 2) 分権型社会にふさわしい社会空間の形成
 - 3) ライフステージに応じた多様な選択肢の提供をねらいとし、地方圏において安心して暮らせる地域を形成するため、中心市と周辺市町村が相互に連携・協力しながら、生活に必要な都市機能を確保し、全体として魅力あふれる地域の形成を進める構想です。



2 定住自立圏形成の考え方

- ◆ 人口減少や高齢化に伴い、小さな市町村だけで全ての住民サービスを完結することは困難になりつつあることから、「**選択と集中**」の考え方を基本として、地方への人口定住を図る必要があります。
- ◆ また、全ての市町村にフルセットの生活機能を整備することは困難であることから、圏域の核となる中心市が圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備し、周辺地域と連携・交流していくという、「**集約とネットワーク**」の考え方が重要です。
- ◆ 定住自立圏の形成にあたっては、総務省をはじめとして、国の様々な支援を受けることができます。

選択と集中

- 全ての国民にとって必要な機能を確保しつつ、地方の自主的な取組みを重点支援。
- 単なる地方へのバラマキではない考え方

集約とネットワーク

- 圏域全体で役割を分担しながら生活機能を整備し、圏域全体を活性化。
- 中心市は都市機能を集約的に整備。周辺市町村は環境、地域コミュニティ、食料生産、歴史・文化等の役割

総務省の支援

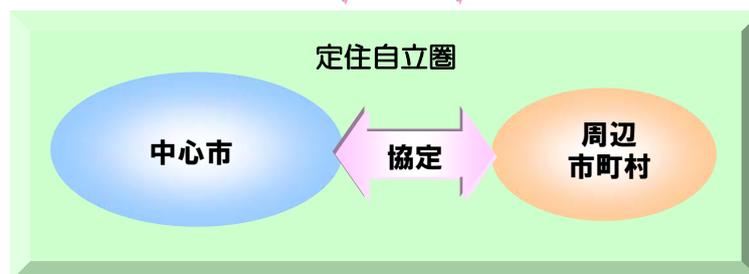
- 中心市・周辺市町村に対する財政措置（交付税、地方債等）
- ICT基盤整備
- 各府省の支援策を分かりやすく地方自治体に情報提供

各府省の支援

- 医療、福祉（厚生労働省）
- 交通、観光（国土交通省）
- 農林水産業（農林水産省）
- 産業振興（経済産業省）等

立案・実施の
各段階で連携

地方政策展開のプラットフォーム

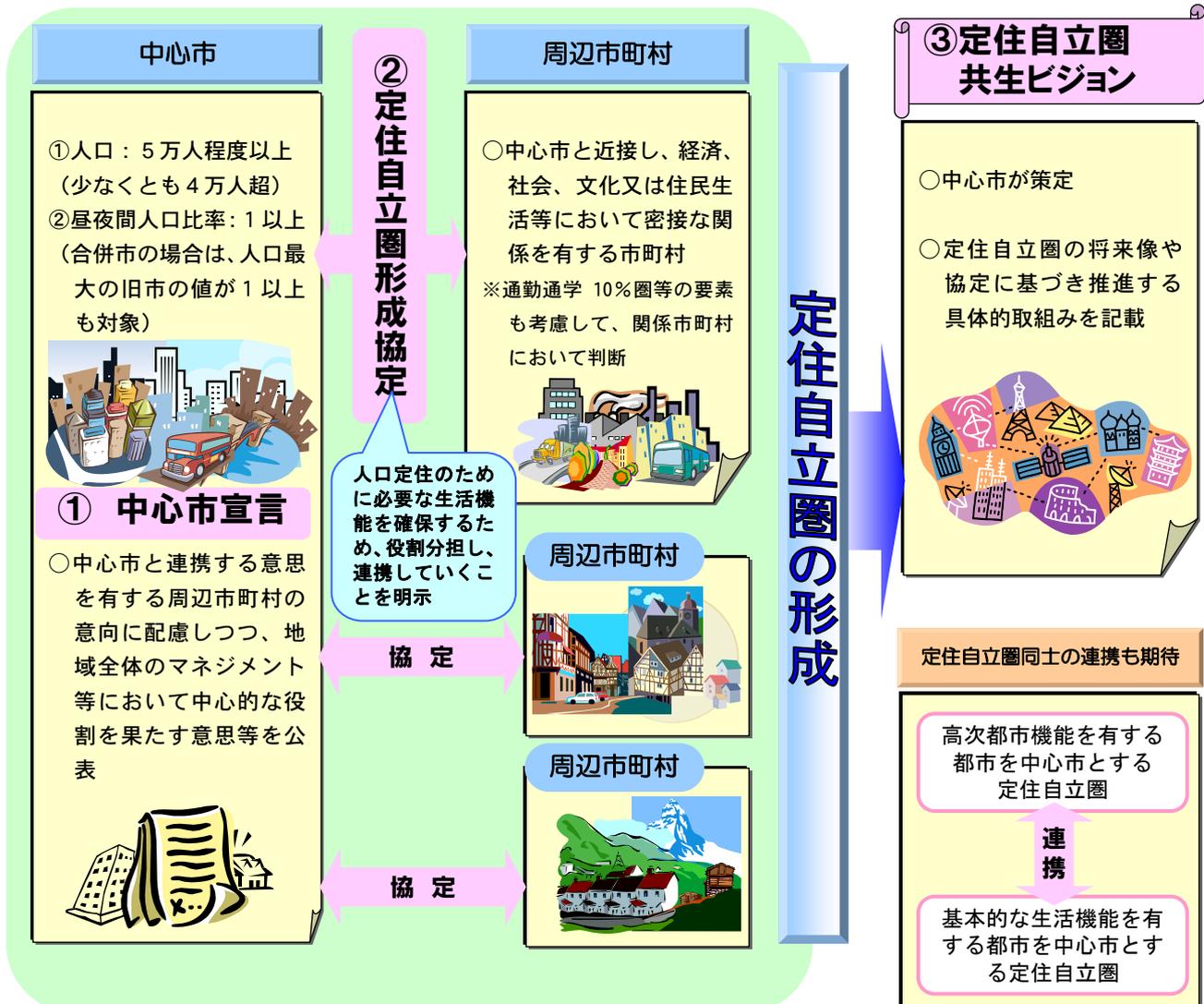


施策推進のための
3つの観点

- 1 生活機能の強化
- 2 結びつきやネットワークの強化
- 3 圏域マネジメント能力の強化

3 定住自立圏の進め方

- ◆ 定住自立圏の中心市には、生活に必要な都市機能について一定の集積があり、周辺市町村の住民もその機能を利用することにより、生活の利便性が向上します。
- ◆ 中心市となる都市は、地域全体における生活機能を確保し、魅力を向上させる上で、周辺市町村の意向に配慮しつつ、中心的な役割を担う意思を明示するため、「**中心市宣言**」を行い、公表します。
- ◆ 中心市と周辺市町村は、それぞれの関係市町村の議会の議決を経て、「**定住自立圏形成協定**」を締結します。中心市と周辺市町村の、この1対1の協定の積み重ねにより、定住自立のための圏域が構成される仕組みになっています。
- ◆ 中心市は、形成協定の締結により形成された定住自立圏全体を対象として、当該圏域の将来像や、協定に基づき推進する具体的取組みを記載した「**定住自立圏共生ビジョン**」を策定し、公表します。



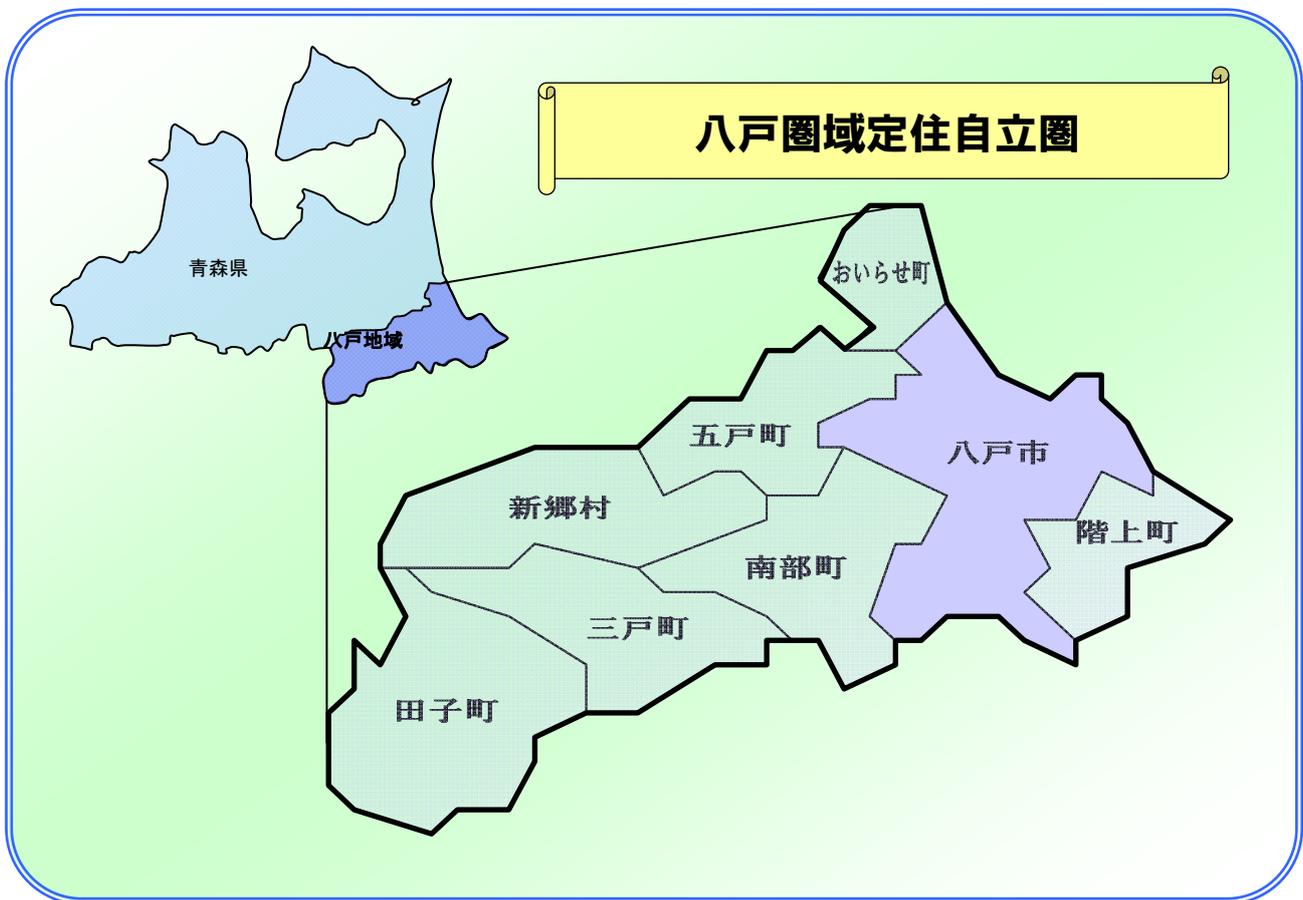
◎八戸圏域定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって

4 目的

定住に必要な都市機能及び生活機能の確保・充実を図るとともに、自立に必要な経済基盤の整備を促進することにより、魅力あふれる定住自立圏を形成するため、中長期的な観点から八戸圏域定住自立圏が目指す将来像、及びその実現のために必要な具体的な取組みを示すものです。

5 定住自立圏の名称及び構成市町村

- ◆ 名称：八戸圏域定住自立圏
- ◆ 構成市町村：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町



6 ビジョンの期間

本ビジョンで示す将来像の実現に向けた具体的な取組みの計画期間は、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間とします。なお、毎年度所要の変更を行います。

◎八戸圏域定住自立圏共生ビジョンの概要

7 八戸圏域の概況

(1) 圏域の結びつき

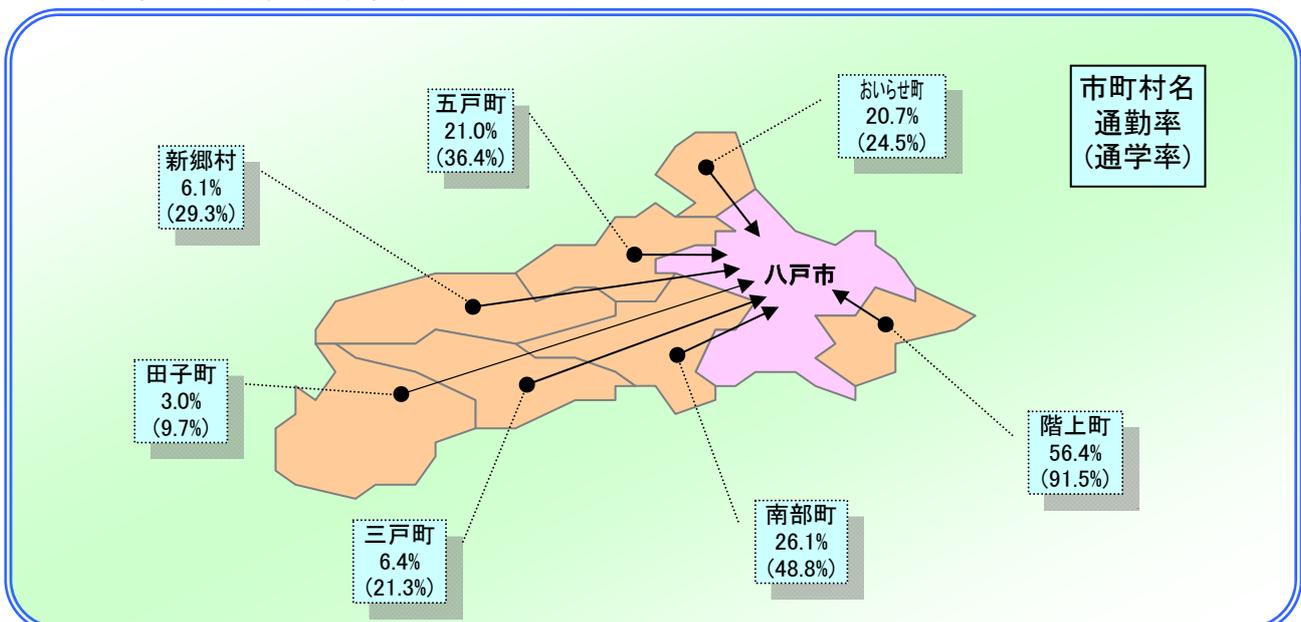
- ◆ 八戸圏域は8市町村で構成され、古く藩政時代から同じ南部藩として、長い歴史を共有してきたほか、一部事務組合や企業団の設置、新産業都市建設事業、地方拠点都市地域整備事業など、当圏域の広域的課題に対し、一体となって取り組んできました。
- ◆ 現在、圏域の総人口は、約35万人であり、このうち八戸市の人口は、圏域全体の約7割を占めています。
- ◆ 通勤・通学、買物、医療など、主要な生活行動における日常生活圏が、八戸市を中心に形成されています。

■ 人口総数及び昼夜間人口比率

	八戸市	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村	おいらせ町	合計
人口総数 (人)	244,700	12,261	20,138	6,883	21,552	15,356	3,143	24,172	348,205
昼夜間人口 比率 (%)	105.3	100.3	90.6	97.6	85.3	70.0	93.0	87.9	—

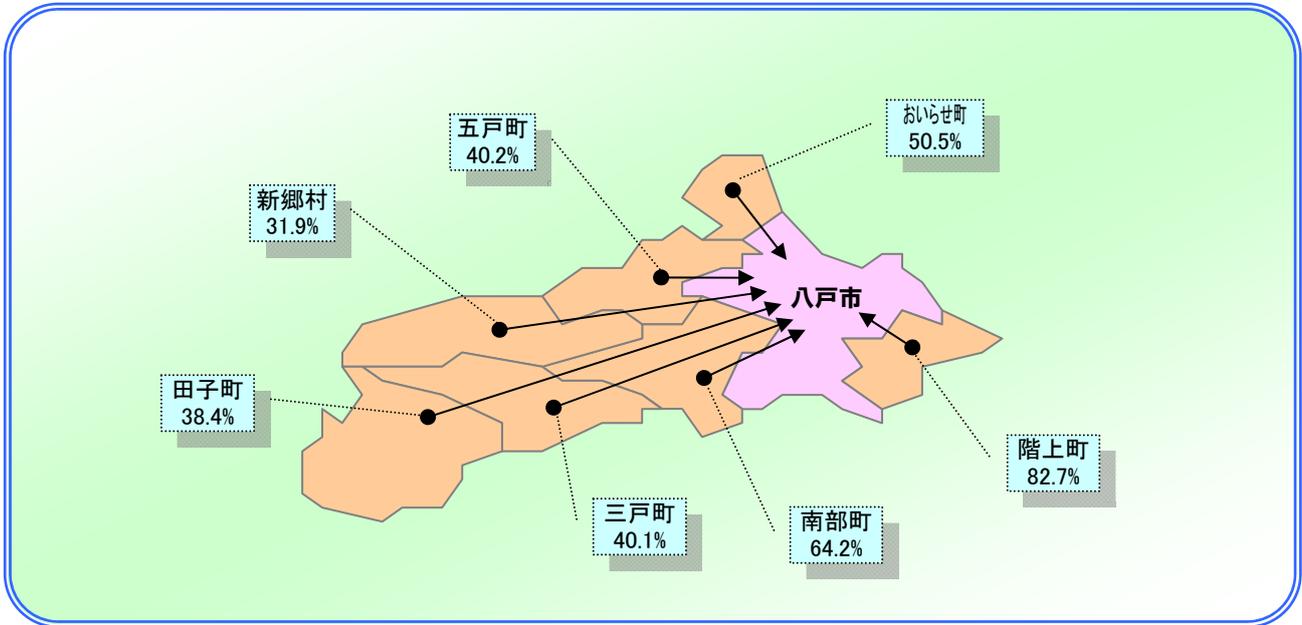
出典：平成17年国勢調査（総務省統計局）

■ 八戸市への通勤・通学者状況 (%)



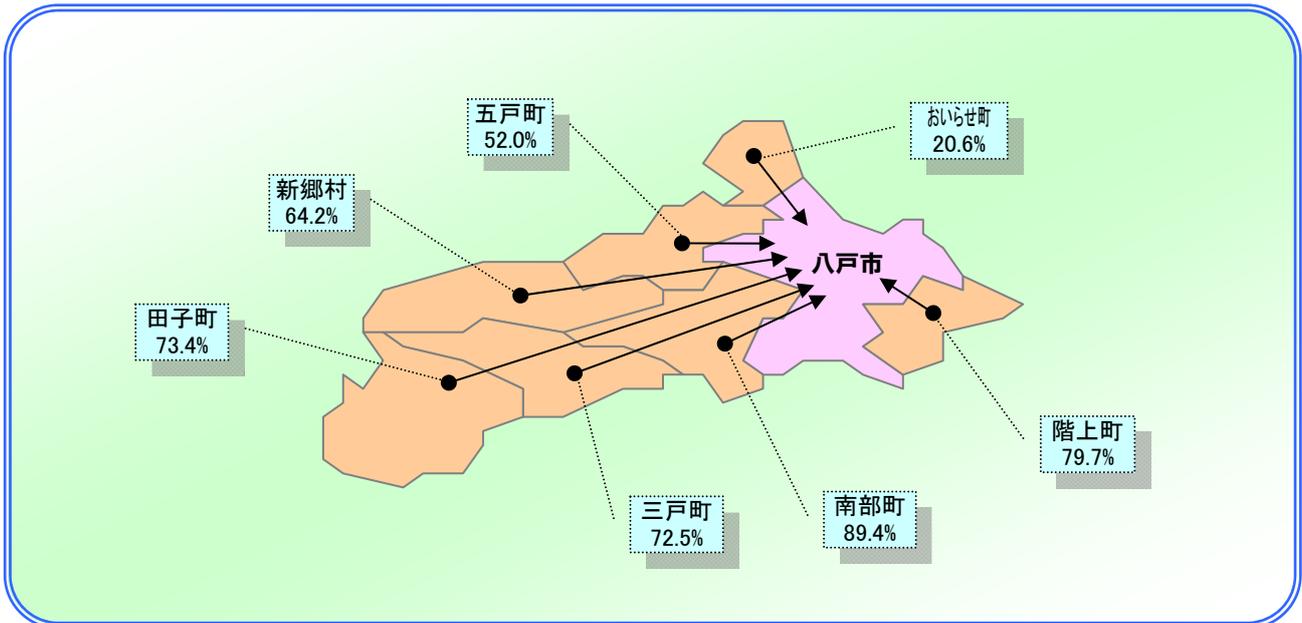
出典：平成17年国勢調査（総務省統計局）

■ 八戸市内の病院への入院動向（％）



出典：平成 18 年度青森県医療機能調査

■ 八戸市への消費者購買実態 買回品吸収率（％）



出典：消費者購買動向による商圈調査報告書（平成 18 年度）

(2) 主な地域資源

◆ 八戸圏域には、これまで培ってきた自然や歴史、伝統文化、多様な産業など、活用すべき地域資源があります。

市町村	自然景勝地・歴史	文化・スポーツ施設	レクリエーション施設その他
八戸市	<ul style="list-style-type: none"> 種差海岸・蕪島 青葉湖 是川遺跡 八戸えんぶり 八戸三社大祭 	<ul style="list-style-type: none"> 長根総合運動公園 新井田インドアリンク カッコーの森エコーランド 八戸市公会堂 南郷文化ホール 	<ul style="list-style-type: none"> グレットタワーみなと 八食センター 市営魚菜小売市場 みろく横丁 「道の駅」なんごう
三戸町	<ul style="list-style-type: none"> 城山公園（三戸城） 泉山の登拝行事 佐藤家建造物 	<ul style="list-style-type: none"> アップルドーム 町民体育館 サン・スポーツランド三戸 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅さんのへ 三戸望郷大橋 勤労青少年ホーム
五戸町	<ul style="list-style-type: none"> 五戸代官所 奥州街道 江渡家住宅 	<ul style="list-style-type: none"> ひばり野公園 歴史みらいパーク 倉石スポーツセンター 	<ul style="list-style-type: none"> 五戸まきば温泉 小渡平公園 倉石温泉
田子町	<ul style="list-style-type: none"> みろくの滝 大黒森の山つつじ 田子神楽 	<ul style="list-style-type: none"> タブコピアンプラザ 創遊村 229 スキー場 	<ul style="list-style-type: none"> タブコピ創遊村 ガーリックセンター 大雷針砂防愛ランド
南部町	<ul style="list-style-type: none"> 名久井岳 法光寺・承陽館 (三重の塔) 南部利康霊屋 	<ul style="list-style-type: none"> ふくちアイスアリーナ 南部芸能伝承館 町民ホール「楽楽ホール」 	<ul style="list-style-type: none"> バーデハウス 長谷ぼたん園 名川チェリーセンター
階上町	<ul style="list-style-type: none"> 階上岳 階上海岸 寺下観音 	<ul style="list-style-type: none"> ハートフルプラザはしかみ 八戸カントリープラザ 町民プール 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅はしかみ フォレストピア階上 ふるさと河川公園
新郷村	<ul style="list-style-type: none"> 水芭蕉群生地 キリストの墓 大石神ピラミッド 	<ul style="list-style-type: none"> 都市農村交流センター (美郷館) 村営金ヶ沢スキー場 	<ul style="list-style-type: none"> 迷ヶ平キャンプ場 間木ノ平グリーンパーク 野沢温泉鷺の湯
おいらせ町	<ul style="list-style-type: none"> 日本一の自由の女神像 長寿日本一のいちょうの大樹 間木堤白鳥飛来地 	<ul style="list-style-type: none"> 大山将棋記念館 いちょう公園 下田公園 	<ul style="list-style-type: none"> カワヨグリーン牧場 観光 PR センター味祭館 イオンモール下田

8 圏域の課題と可能性

(1) 圏域の課題

①暮らしを支える生活関連サービスに関する課題

- ・ 町村部での医師不足を背景とした医療サービスの低下
- ・ 公共交通の衰退等によるモビリティの低下
- ・ 情報基盤整備の差異による地域間の情報格差の存在

②雇用の確保と農林業に関する課題

- ・ 厳しい雇用情勢
- ・ 地域の雇用を担っていた工場の撤退、企業立地の低迷
- ・ 町村の基幹産業である農林業の衰退
- ・ 地域産品の供給力及び付加価値の不足

③交流人口の拡大に関する課題

- ・ 十分に活用されていない地域資源
- ・ 観光振興における経営的視点の不足
- ・ グリーン・ツーリズムにおける受入体制の強化

④地域づくりを担う人材の育成に関する課題

- ・ 官民間わす地域づくりを担う人材の育成
- ・ 町村における職員の研修機会の不足
- ・ 町村におけるNPO等の市民活動団体の不足

(2) 圏域の可能性

①八戸市の高次都市機能の集積と多様な生活関連サービス

- ・ 地域の中核病院としての八戸市立市民病院
- ・ 子育て支援や生涯学習・スポーツ、各種情報サービスなど、多様な生活関連サービス

②八戸市の人口集積と北東北随一の産業集積

- ・ 生産物の大きな市場、農林業の多様な担い手の潜在的存在
- ・ 基幹産業である農業と北東北随一の産業集積による農商工連携

③町村の競争力のある農産物

- ・ 全国ブランドとなっている「たっこにんにく」や「あおもり倉石牛」、「青森シャモロック」
- ・ 全国ブランドのほかにも、高い評価を得ている長いも、にんじん、食用菊などの農産物

④陸・海・空の交通拠点性

- ・ 全国・海外を視野に入れた交流人口の拡大や産業活動の展開が可能

⑤ライフステージやライフスタイルに応じた居住の多様な選択肢

- ・ 8市町村それぞれに生活の豊かさを感じさせる居住環境

⑥八戸市の情報発信力

- ・ 首都圏における情報発信力

⑦八戸市の人材育成や市民活動の交流機能

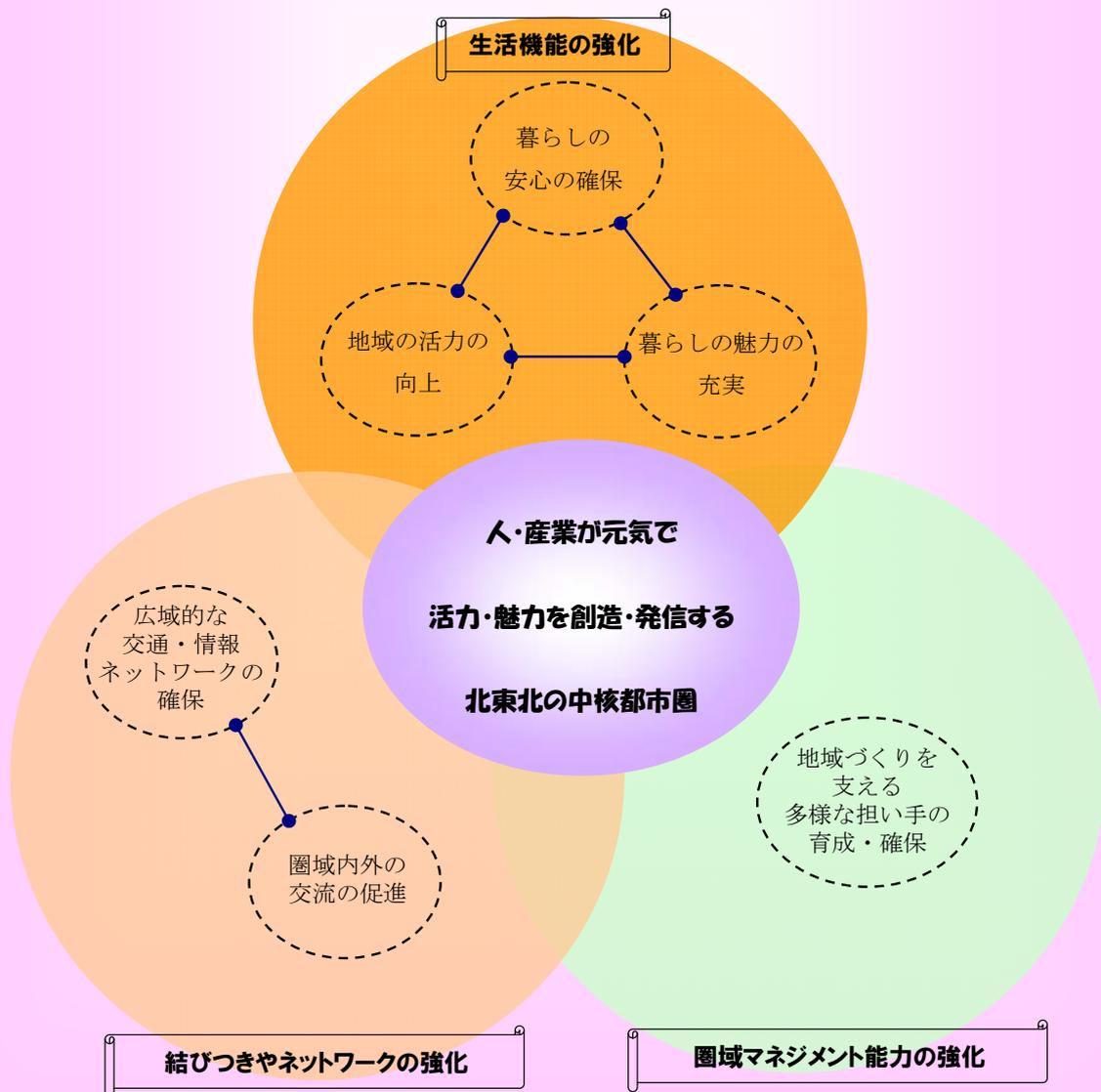
- ・ 職員研修の多様な機会
- ・ NPO等の市民活動団体や市民活動の支援機能

9 圏域の将来像

<圏域の将来像>

- ◇ 今後、本格的な人口減少・少子高齢社会を迎えるにあたっては、北東北随一の産業集積や陸・海・空の交通拠点性、地域特性を背景とした多様な生活の豊かさなど、当圏域の強みを活かしつつ、圏域の住民・企業・行政の協働・連携により、暮らしやすさや活力、魅力の質的な向上を図り、持続可能な地域社会を形成していかなければなりません。
- ◇ また、中心市である八戸市が周辺の町村を支えるということだけではなく、中心市と周辺町村の双方にとってメリットがあり、圏域全体としてさらなる飛躍が図られるような関係を目指すといった視点も重要です。
- ◇ このような考えから、八戸圏域定住自立圏が目指す将来像を以下のように定めます。

人・産業が元気で活力・魅力を創造・発信する北東北の中核都市圏



10 八戸圏域の取組の経過

平成 20 年 10 月 28 日	総務省から先行実施団体（全国 18 圏域（中心市 20 市））に選定される。
平成 21 年 2 月 23 日	第 1 回八戸圏域定住自立圏関係市町村長会議を開催。
3 月 19 日	八戸市長が中心市宣言を行う。
8 月 18 日	第 2 回八戸圏域定住自立圏関係市町村長会議を開催。
9 月 17 日	八戸市において、定住自立圏形成協定の締結について、議会で議決。 <各町村の議決月日> 三 戸 町 9 月 7 日 階 上 町 9 月 11 日 五 戸 町 9 月 15 日 新 郷 村 9 月 8 日 田 子 町 9 月 8 日 おいらせ町 9 月 7 日 南 部 町 9 月 7 日
9 月 24 日	八戸市長と関係 7 町村長とが、1 対 1 で形成協定を締結。 （八戸圏域定住自立圏形成協定調印式）
10 月 15 日	第 1 回八戸圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催。
11 月 18 日	第 2 回八戸圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催。
11 月 18 日 ～12 月 7 日	八戸圏域定住自立圏共生ビジョンについて、パブリックコメントを実施。
12 月 22 日	第 3 回八戸圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催。
平成 22 年 2 月 16 日	第 4 回八戸圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催。
2 月 22 日	第 3 回八戸圏域定住自立圏関係市町村長会議を開催。



（左から、青森県三八地域県民局長、おいらせ町長、階上町長、田子町長、三戸町長、八戸市長、五戸町長、南部町長、新郷村長、八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟会長）

この冊子について

この冊子は、八戸圏域定住自立圏の形成に向けた取組みを説明するため、国の定住自立圏構想及び八戸圏域定住自立圏共生ビジョンの概要をわかりやすく紹介するための冊子です。

綴じ込み本体部分には、構想の概要並びに圏域の概況、将来像及びその取組の経過等を掲載しています。

そして、巻末のポケット部分には、形成に向けた具体的取組内容を紹介した別紙を収納しています。

共生ビジョンは、毎年度所要の見直しを行うことになっていますので、その結果新たに取り組むこととなった事業等については、その都度別紙として追加していきます。

1 生活機能の強化

(1) 医療

1) 地域医療体制の充実

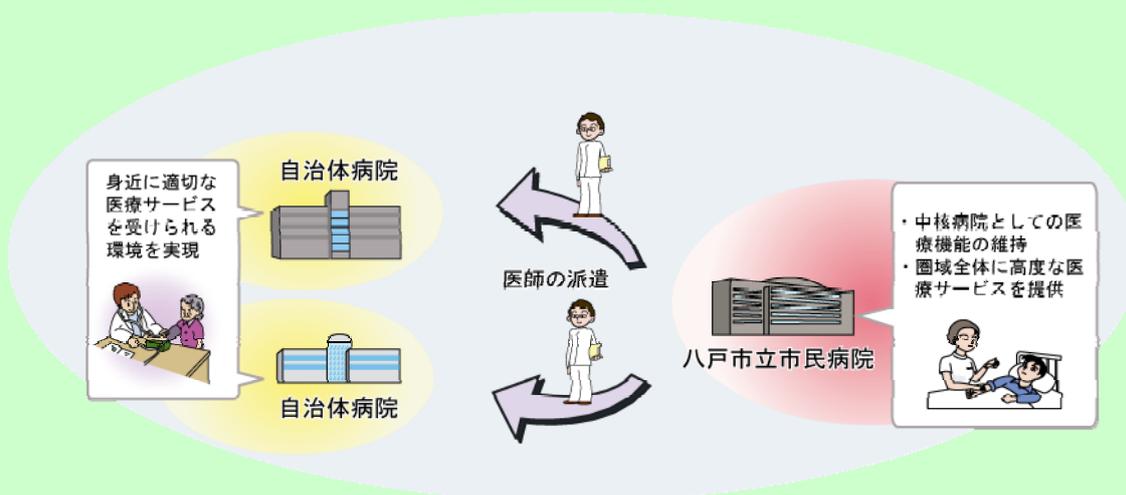
連携市町村:八戸市 三戸町 五戸町

【取組み】

- 五戸総合病院、三戸中央病院を対象に、医師充足数の実態に応じて、八戸市立市民病院から医師の派遣を行います。

【効果】

- 病症の程度や回復の度合いに応じて、身近に適切な医療サービスを受けられる環境が充実します。
- 八戸市立市民病院への過度な依存が軽減されることで、中核病院としての八戸市立市民病院の医療機能が維持され、圏域全体に高度な医療サービスを提供する体制が強化されます。



2) 救急医療体制の充実

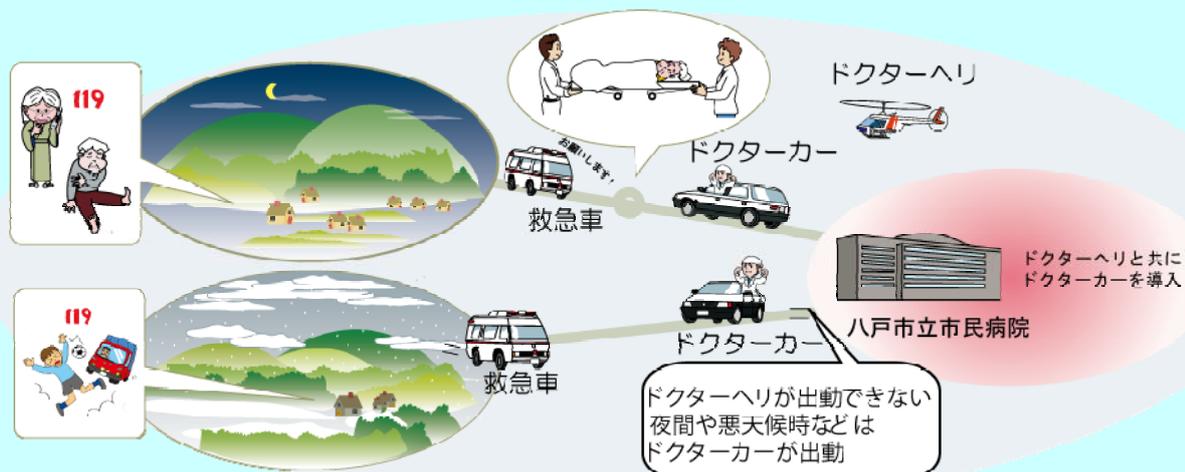
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 八戸市立市民病院にドクターカーを導入します。

【効果】

- 八戸市立市民病院を運航病院として運航されているドクターヘリとドクターカーを併用することで、救急医療における地域格差が緩和されるとともに、救急患者の救命率及び社会復帰率が向上します。



3)周産期医療体制の充実

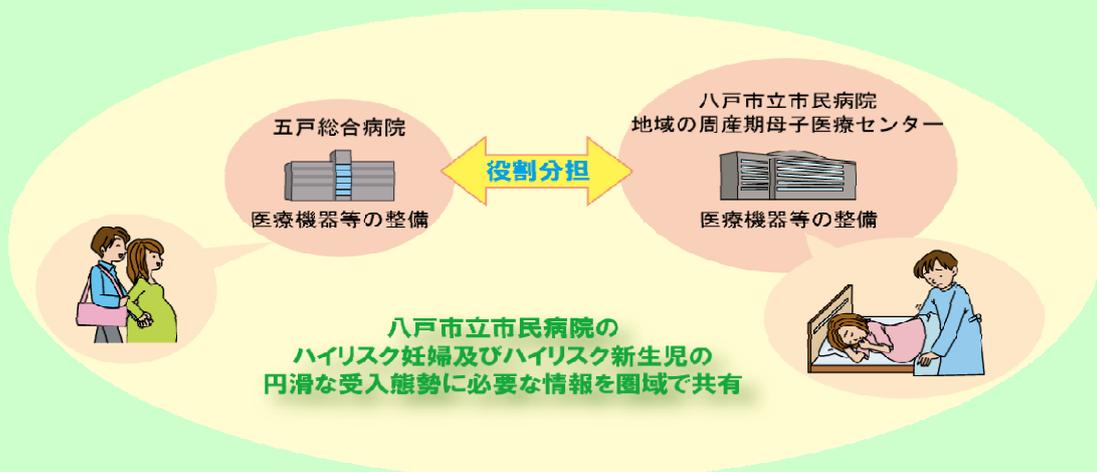
連携市町村:八戸市 五戸町

【取組み】

- 五戸総合病院、八戸市立市民病院（地域周産期母子医療センター）において、通常分娩の安全管理や、ハイリスク妊婦等の早期発見・安全管理に対応した医療機器等の整備を行います。
- 周産期における医療体制等の各種情報を住民に周知するとともに、八戸市立市民病院におけるハイリスク妊婦及びハイリスク新生児の円滑な受入に必要な情報を市町村間で共有し、住民に情報提供します。

【効果】

- 五戸総合病院と地域周産期母子医療センターの役割を担う八戸市立市民病院の機能強化、役割分担が図られます。
- 周産期に関する各種情報の周知が図られるとともに、ハイリスク妊婦及びハイリスク新生児が速やかに適切な医療を受けられるようになります。



(2) 福祉

1)子育て支援の充実

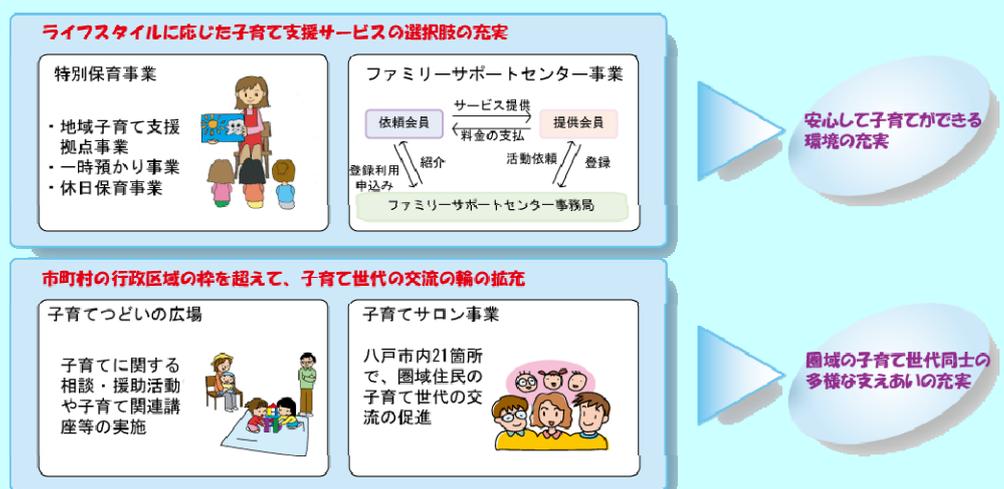
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 八戸市が実施している各種子育て支援事業の対象区域を拡大し、圏域全体として安心して子育てができる環境を整備します。

【効果】

- ライフスタイルに応じた子育て支援サービスの選択肢が増えることで、安心して子育てができる環境の充実につながります。
- 圏域の子育て世代同士の多様な支えあいにつながります。



1 生活機能の強化

(3) 産業振興

1) 農業振興に係る情報提供体制の構築

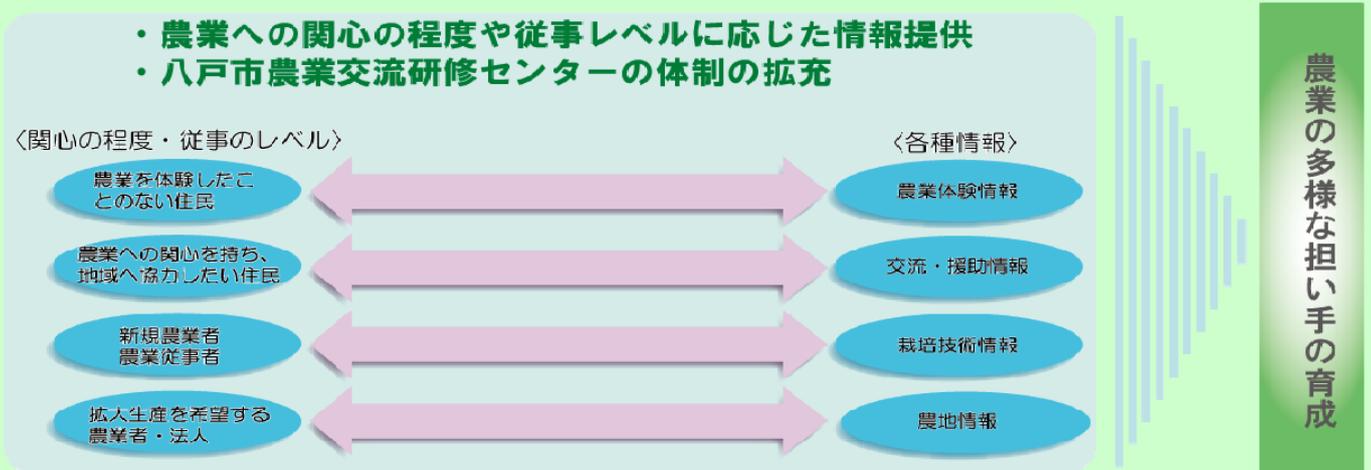
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 農業体験情報、交流・援農情報、栽培技術情報及び農地情報について、農業への関心の程度や農業従事のレベルに応じた情報提供の仕組みを整備します。
- 八戸市農業交流研修センターの体制を拡充し、新規就農希望者に研修機会を提供するとともに、関係町村の住民に栽培技術情報を提供します。

【効果】

- 圏域の基幹産業である農業の活性化と多様な担い手の育成・確保につながります。



(4) 教育

1) 社会教育の推進

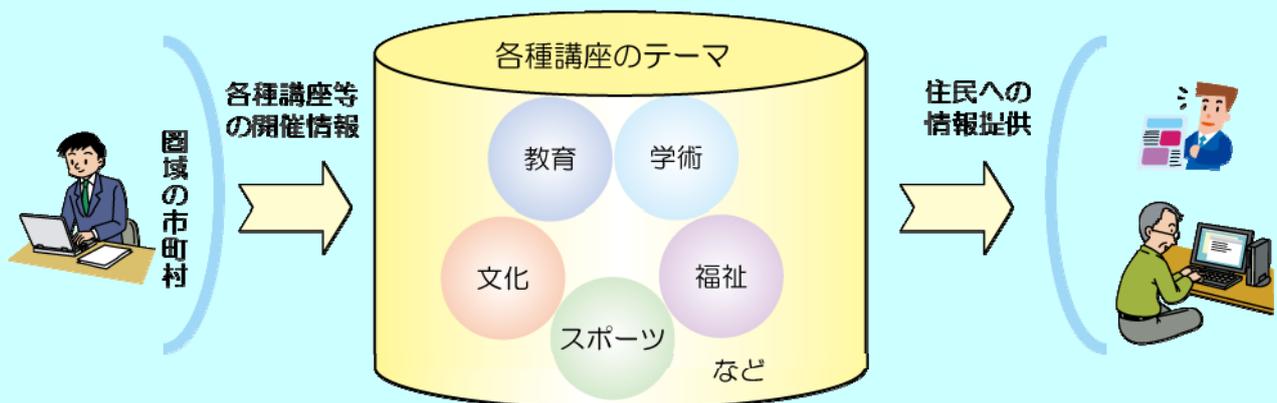
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 八戸市民大学講座等の各市町村が実施している各種講座などについて、圏域内の情報を収集・共有する体制を整備するとともに、広報誌やホームページなどの広報媒体を活用して地域住民への周知を強化します。

【効果】

- 生涯学習の機会を圏域で共有することにより、圏域住民の選択肢が広がります。



2 結びつきやネットワークの強化

(1) 地域公共交通

1) (仮称)圏域公共交通計画の策定及び推進

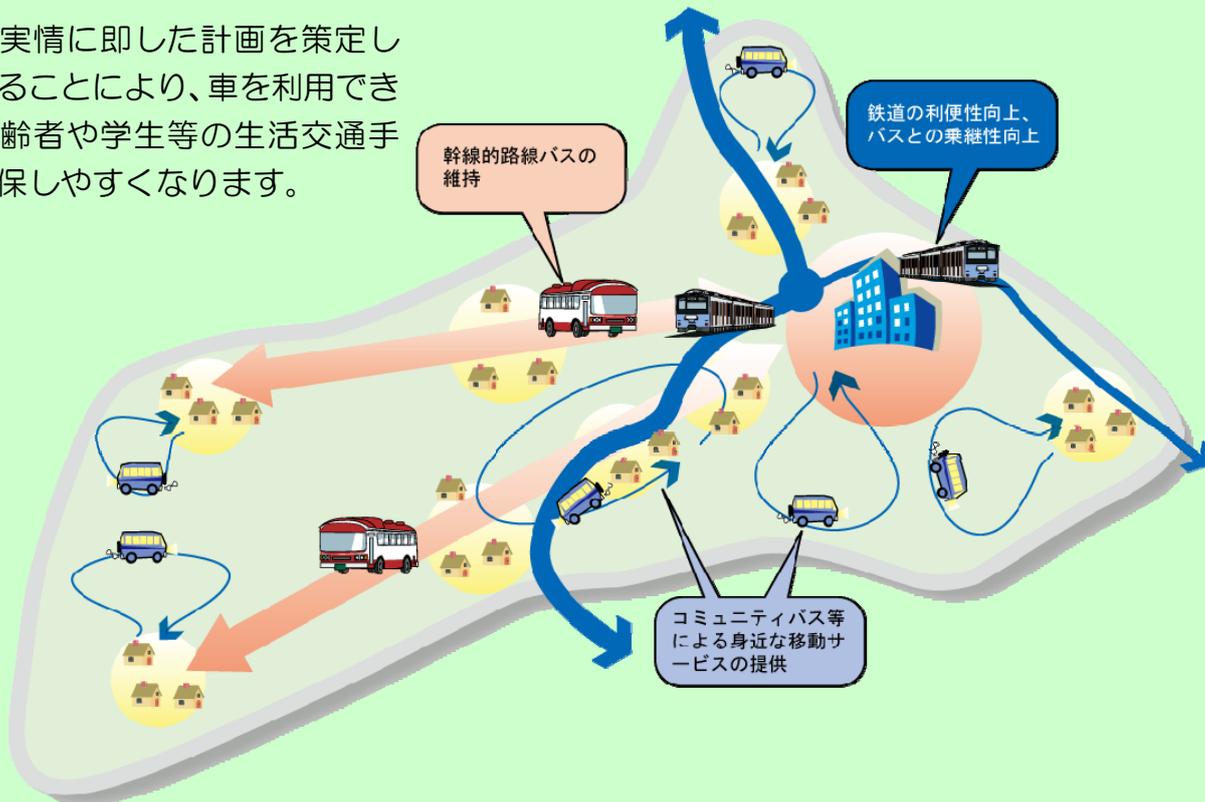
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 公共交通事業者等を交えて、地域の実情に即した、多様で持続可能な公共交通体系のあり方と対応策をまとめた(仮称)圏域公共交通計画を策定し、推進します。

【効果】

- 圏域の実情に即した計画を策定し推進することにより、車を利用できない高齢者や学生等の生活交通手段が確保しやすくなります。



(2) デジタルディバイドの解消に向けたICTインフラの整備

1) ICTインフラの基盤整備及び利活用

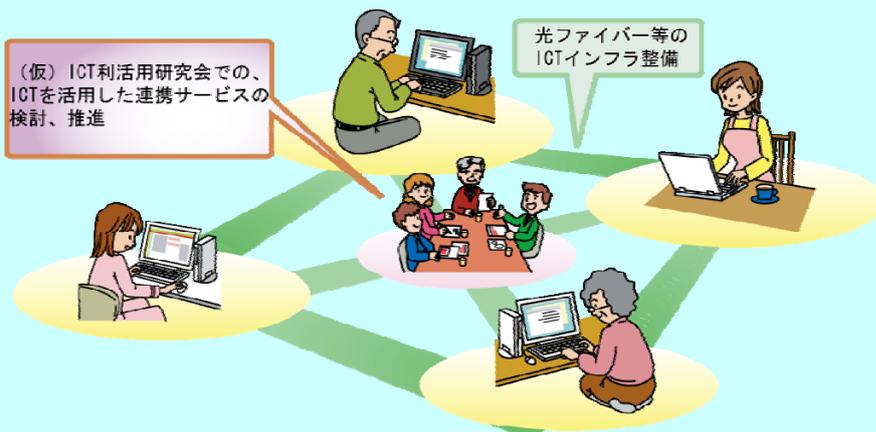
連携市町村:八戸市 五戸町 田子町 新郷村 おいらせ町

【取組み】

- 圏域内のデジタルディバイドを解消するため、ブロードバンドゼロ地域等に光ファイバー等のICTインフラの整備を行います。
- 圏域内の市町村等が共同して(仮称)ICT利活用研究会を設置し、ICTの積極的な利活用による有機的かつ効果的な連携施策を検討し、推進します。

【効果】

- 情報格差が解消され、住民が等しく各種情報サービスを受用できるようになります。
- 地域住民の利便性向上に資する新たな連携施策の提案、実現が期待されます。



2 結びつきやネットワークの強化

(3) 地域内外の住民との交流・移住促進

1) 八戸市東京事務所を活用した地域情報の発信

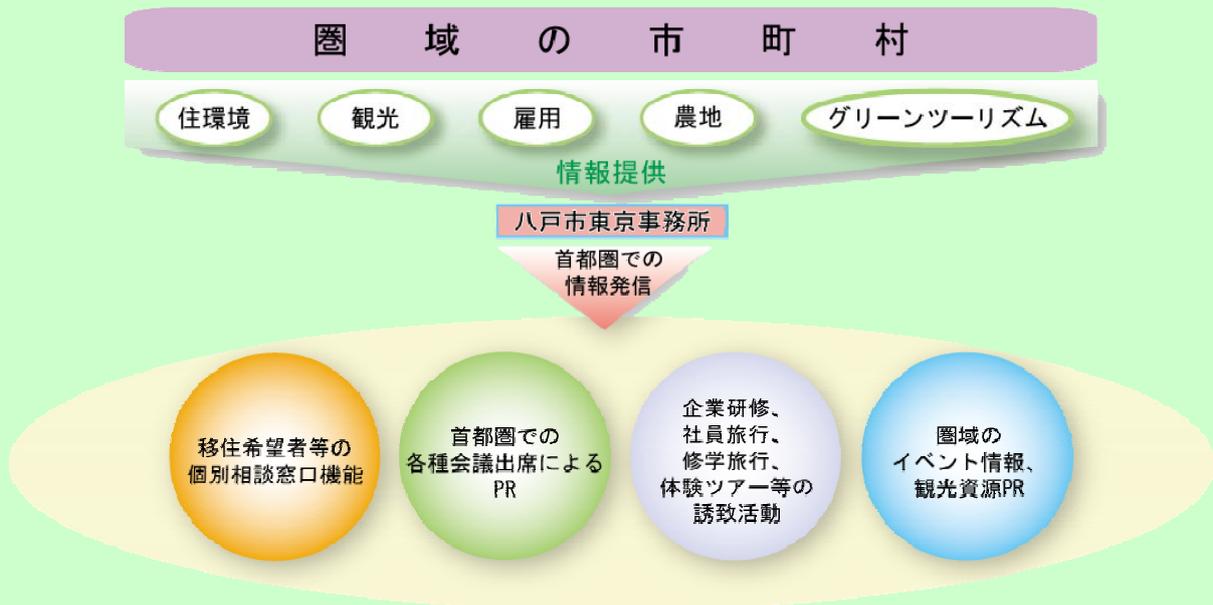
連携市町村: 全市町村

【取組み】

- 八戸市東京事務所を活用して、圏域内の各種情報を発信するとともに、首都圏において圏域出身者を含めたUJターン希望者等の各種相談に対応します。

【効果】

- 大規模な需要が潜在している東京において、圏域で連携して地域資源の情報を発信することにより、圏域のイメージアップが図られ、交流・移住の促進につながります。



2) グリーン・ツーリズムの推進

連携市町村: 八戸市 三戸町 田子町 南部町 階上町

【取組み】

- 圏域内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、三八地方農業観光振興協議会の運営体制を整備するとともに、八戸市東京事務所を活用して情報発信機能の強化を行います。

【効果】

- 修学旅行生の受入が安定するとともに、経済波及効果等が大きいと考えられる大人を対象とした体験交流の受入が拡大します。



3) 空き家バンクを活用した移住促進

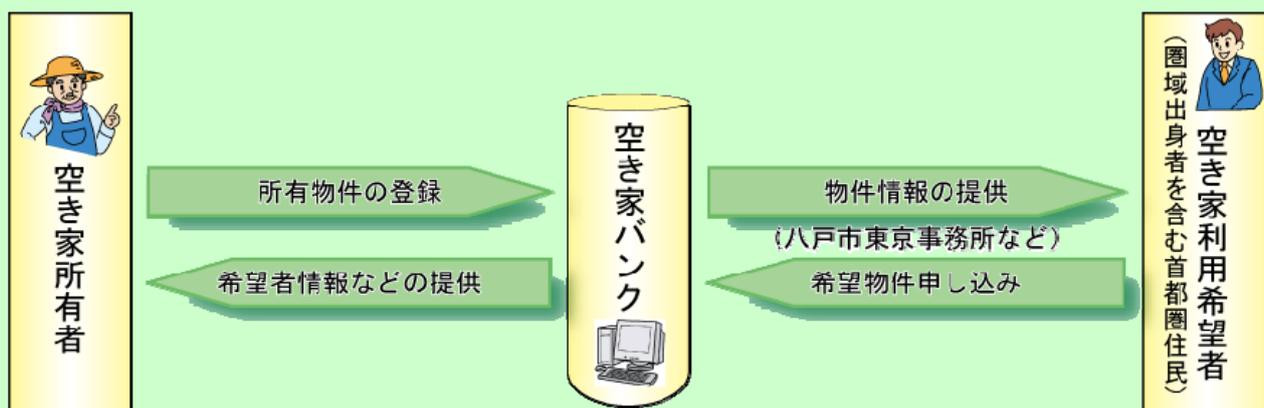
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 圏域内の空き家情報を収集し空き家バンクを構築するとともに、八戸市東京事務所を窓口として、圏域出身者を含めた首都圏住民に対し、空き家情報の発信を行います。

【効果】

- 空き家の貸し手と借り手のマッチングにより、大都市圏からの移住が促進されます。



(4) 安全・安心なまちづくり

1) 安全・安心情報システムの構築

連携市町村:全市町村

【取組み】

- 八戸市が運営している「ほっとスルメール」を、圏域全体に拡大し、各市町村の住民ニーズに合わせた各種情報を各市町村が独自に提供することができるシステムを構築します。

【効果】

- 圏域内の各市町村ごとの独自の情報をメールにて入手することにより、災害や犯罪に対して、初期の段階で対応することができます。



3 圏域マネジメント能力の強化

(1) 圏域内市町村職員の育成

連携市町村:全市町村

【取組み】

- 現在八戸市が実施している各種職員研修プログラムについて、関係町村職員の参加の機会を提供するとともに、新たに「(仮称)市町村交流スクール」として、圏域内各市町村職員の政策形成能力の向上を目的とした合同研修を実施します。
- 八戸工業大学、八戸大学、八戸工業高等専門学校との3校と八戸市が連携して、地域の政策課題について調査研究するために設置する地域シンクタンクについて、関係町村職員に参加の機会を提供します。

【効果】

- 職員の資質と能力の向上が期待できます。



(2) NPO等の活動促進

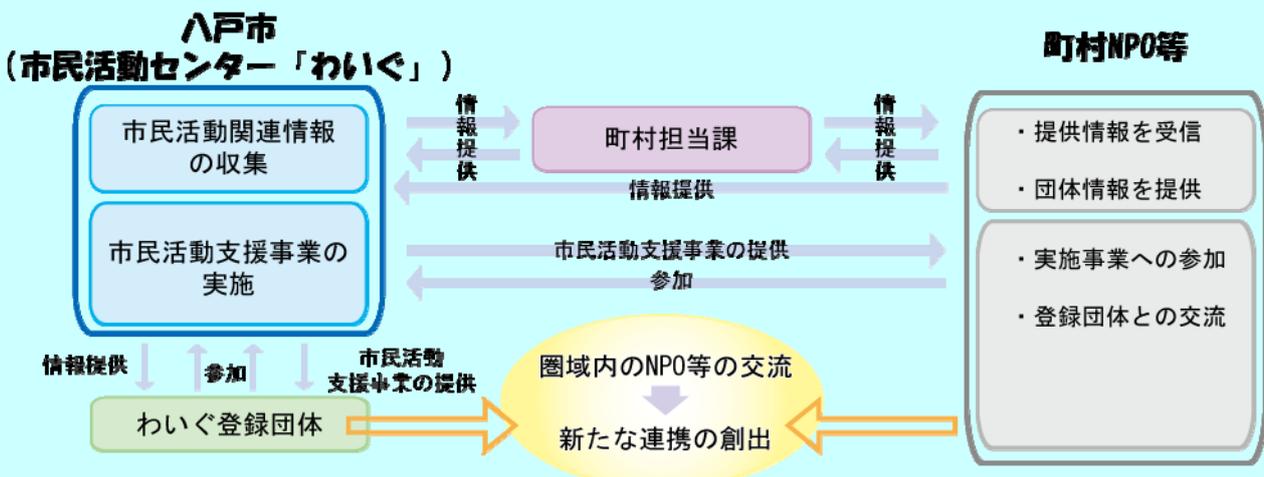
連携市町村:全市町村

【取組み】

- 圏域内のNPO等が市民活動関連情報を共有できる仕組みとして、八戸市市民活動サポートセンターが実施する各種市民活動支援事業への参加範囲を、各町村のNPO等及び住民へ拡大します。

【効果】

- 圏域内のNPO等の市民活動が活発になるとともに、公益的な活動を通じた圏域内住民の交流が活発になることが期待されます。



八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟の設立

◇ 設立目的

八戸圏域定住自立圏の形成に向けて、定住自立圏構想に対する理解を深めるとともに、意見交換等を通じ、圏域の振興・発展に資することを目的とする。



◇ 構成

八戸圏域定住自立圏を構成する市町村議会議員の有志で結成【総勢130名程度】

◇ 事業概要

- ① 定住自立圏構想に関する情報の収集及び分析
- ② 定住自立圏構想に関する勉強会及び研修会の開催
- ③ その他、八戸圏域定住自立圏の形成に資する事業

◇ 設立年月日

平成21年9月9日



議員連盟設立総会（平成21年9月9日開催）

八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟の活動

◇ これまでの活動経過

- ▶今年度はこれまで2回の勉強会・交流会を開催し、今月19日に第3回を開催予定
- ▶勉強会には、市町村議会議員のほか圏域内市町村職員も参加し、構想への理解を共有
- ▶総務省地域力創造グループ地域自立応援課へ講師派遣を依頼するなど、全国各地の最新の取組状況や今後の方向性等、幅広い情報収集に努める

- 平成21年 9月 9日（開催地：八戸市）
議員連盟設立総会
第1回勉強会・交流会【参加者数 約120名】
- 平成21年11月26日（開催地：南部町）
第2回勉強会・交流会【参加者数 約110名】
- 平成22年 2月19日（開催予定地：八戸市）
第3回勉強会・交流会

◇ 今後の活動予定

平成22年度以降も引き続き、勉強会・交流会等を開催しながら、意見交換を行っていく

※ 勉強会・交流会は年4回程度開催予定



第1回勉強会

（講師：総務省地域力創造グループ地域自立応援課
課長 原田淳志 氏）



第2回勉強会

（挨拶：小林真八戸市長／司会：藤川優里市議）